

# Athletic Motivation Inventory と Sport Competition Anxiety Test の因子的妥当性について

## Factorial Validity of Athletic Motivation Inventory (AMI) and Sport Competition Anxiety Test (SCAT)

猪俣 公宏\*<sup>1</sup> 伊藤 早由美\*<sup>2</sup> 西田 保\*<sup>3</sup> 岡沢 祥訓\*<sup>4</sup>

Kimihiro INOMATA\*<sup>1</sup>, Sayumi ITO\*<sup>2</sup>, Tamotsu NISHIDA\*<sup>3</sup>,  
Yoshinori OKAZAWA\*<sup>4</sup>

Recently, considering sport-specific personality trait, AMI and SCAT were constructed by Tutko and his fellows, and Martens respectively in order to predict athletes' behavior in competition situation.

The first purpose of the present study is to examine the factorial validity of AMI and SCAT, which were translated into Japanese. The second purpose is to determine the relationships between the general personality traits measured by Maudsley Personality Inventory (MPI) and the sport-specific traits measured by AMI and SCAT.

Female undergraduate students whose major are physical education served as subjects (n=245). During school session the subjects completed a battery of tests including AMI, SCAT and MPI.

Firstly, the results of factor analysis for AMI and SCAT revealed as follows:

- (1) Ten factors out of the twenty one extracted in AMI were interpretable as follows: Coachability, Trust, Guilt-Proneness, Self-Confidence, Faith, Arbitrary Decision, Accuracy of Response, Aggressiveness, Reliability and Drive. Approximately, 40% of total variance were explained by these factors.
- (2) In the factor analysis of SCAT, three interpretable factors were detected as follows: Nervousness, Failure Anxiety and General Anxiety before Competition. Explained Variance of the three common factors were nearly 60% of total variance.

Judging from the above results, the factorial validity of AMI and SCAT is not satisfactory for Japanese female adult subjects.

Secondly, the correlation coefficients between the general and the specific traits were somewhat low but significant ( $p < .05$ ) for limited factors. As theorized by Hollander, it was suggested that the sport-specific traits might depend on the general traits at some degree.

### 目 的

スポーツ場面における行動の予測について、従来の伝統的な研究は、一般的な性格検査、たとえば矢田部・ギルフォード性格検査 (Y-G) ミネソタ多面性格検査 (MMPI) などを用いた特性論的な立場からのアプローチであった。しかし、スポーツの場における実際の行動をより正確に予測し、競技者を成功に導くためには個人のパーソナリテ

ィ特性とともに、そのパーソナリティ特性が顕在的な行動としてあらわれる際の状況の要因を加味して考えることが必要になってくるのではないかと思われる。現在の段階では、まだスポーツの場に特有な状況変数が十分に考慮されておらず、行動予測上の問題点が指摘されている (Martens)。

このような問題を解決するために、Tutko, Lyon, Ogilvie, 及び Martens らは、従来の検査項

\*1 名古屋大学総合保健体育科学センター \*2 大里中学 \*3 名古屋大学総合保健体育科学センター \*4 中京女子大学

\*<sup>1</sup> Research Center of Health, Physical Fitness and Sports, Nagoya University \*<sup>2</sup> Osato Junior High School \*<sup>3</sup> Research Center of Health, Physical Fitness and Sports, Nagoya University \*<sup>4</sup> Chukyo Women's University

目にスポーツ状況を加味したかたちで新たに競技動機検査(Athletic Motivation Inventory, AMI), スポーツ競争不安テスト(Sport Competition Anxiety Test, SCAT) などの検査を作成している。たとえば AMI では、意欲、攻撃性、決意、自罰傾向、統率、指導性、精神的強靱さ、コーチ受容能力、誠実性、他への信頼感、情動の制御など、11の異なるパーソナリティ特性があげられている。しかし、これらのテスト項目がどのように収集されたのか、また11の特性がどのように設定されたのか、さらに、このテストの妥当性はどのように検討されたのかについては明らかにされていない。これに対し Martens の SCAT は、項目の設定過程また信頼性及び妥当性などについては検討されているが、はたしてここで測られている競争不安は一つの因子として認められるものか、あるいはいくつかの因子に分離されるものか、などの点については不明確な面を持っている。

そこで本研究では、上記2種の日本語版テストを作成し、まずそれらの因子の構造を検討するとともに、従来から一般的な人格検査として使われているモズレー人格検査 (MPI) とスポーツ状況を加味した AMI, SCAT との相関関係を分析して、3つのテスト間の共通性、独自性を検討することを目的とした。

#### 方 法

1. テスト実施対象：中京女子大学体育学部女子学生（200名）、福岡大学体育学部女子学生（45名）の計245名を対象とした。
2. テストの実施項目：実施したテストは AMI 190項目、SCAT 15項目、MPI(モズレー人格検査) 80項目であった。このうち AMI 及び SCAT は、できるだけ原文に忠実なかたちで日本語に翻訳し(資料1, 2)、実施した。検査用紙は通常の講義時間に説明を加えた上で配布し、2日以内に回収した。
3. データ処理の方法：AMI 及び SCAT のスコアリングの方法は、3段階階点(1, 2, 3)を適用した。また MPI は、標準の手続きに従ってスコアシートにより得点化を行なった。これらのデ

ータをもとに SPSS の CONDESCRIPTIVE、及び FREQUENCIES のプログラムを利用し、各テスト別、各項目別に平均値、標準偏差、ヒストグラムを電算機によって求めた。次に、AMI 及び SCAT の因子分析をテスト別に行なった。因子分析はまず ①テスト別に各項目間の相関行列を算出し、②次に主因子解を適用し、eigen value 10以上及び因子の解釈を考慮して、AMI では 20 因子、SCAT では 3 因子を抽出した。③さらに得られた因子行列に対して normal varimax 法による直交回転を行なった。④因子の解釈は、因子の負荷量 0.4 以上の項目を取り上げ、それらの項目に共通する要因を推定するかたちでなされた。他方、AMI, SCAT, MPI の間に見られる関係を分析するために、まず AMI の各項目と MPI の 2 尺度(E. N. 得点) との間、及び SCAT の各項目と MPI の 2 尺度との間にみられる相関係数を算出し、相関の有意性を検討した。また AMI と SCAT の間の各項目間にみられる相関関係も同時に分析し、同じく相関の有意性の検定を試みた。

#### 結果と考察

- (1) AMI と SCAT の因子の構造について(Table 1.2),

AMI では抽出された20因子の全分散比は、共通性を1.0と推定した場合39.2%であった。これに対し SCAT では抽出された3因子の全分散比は60.2%であった。したがってまず AMI は共通因子で説明される分散が相対的に低いといえるだろう。これに対し SCAT は項目数が少ないこともあって約60%と中程度の説明率を示した。

因子の解釈にあたっては、0.40以上の負荷量がみられる項目が3項目以上ある因子を解釈可能な因子として考え、この基準に従って解釈の対象になる因子を選んだ。次に解釈、命名はできるだけ原作者のそれに従って行なった。AMI, SCAT それぞれにおいて、10因子及び3因子が解釈された。その結果 AMI においては、正確性、信頼性を除いて7因子が、Tutko らが仮定している因子と共通していた。命名された各因子を抽出順序にしたがって説明すると次の通りである。まず、

Table 1., Varimax rotated factor matrix for AMI.

items	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	XIII	XIV	XV	XVI	XVII	XVIII	XIX	XX	h <sup>2</sup>
1																					0.34
2																					0.31
3																					0.40
4	-0.52																				0.45
5																					0.45
6																					0.44
7																					0.39
8																-0.44					0.35
9									-0.47												0.31
10																					0.29
11	-0.53																				0.46
12											0.49										0.35
13		-0.41																			0.29
14																					0.39
15				-0.42																	0.53
16																					0.40
17																					0.41
18					-0.46																0.41
19			0.40																		0.42
20																					0.42
21																					0.46
22			0.42																		0.32
23																					0.38
24			0.62																		0.46
25																					0.32
26																					0.37
27																					0.39
28																					0.39
29											-0.46										0.29
30																					0.32
31																-0.54					0.42
32			-0.51																		0.47
33		-0.45																			0.41
34																					0.42
35																					0.47
36					-0.49								-0.43								0.31
37																					0.41
38																	0.55				0.40
39																					0.37
40																					0.39
41																					0.36
42																					0.30
43																					0.42
44			-0.45																		0.49
45																					0.40
46																					0.31
47																					0.36
48																					0.16
49																					0.47
50								0.46													0.25
51																		0.48			0.42
52																					0.32
53			0.50																		0.46
54																					0.47
55																					0.20
56																					0.38
57			0.48																		0.49
58																-0.44					0.38
59																					0.37
60																					0.37
61																					0.37
62	-0.43																				0.46
63																					0.31
64																					0.23
65																					0.36
66																					0.46
67																					0.50
68																					0.40
69																					0.39
70			-0.44																		0.35
71								0.40													0.48
72															-0.49						0.37
73			-0.61																		0.48
74											-0.40									-0.47	0.49
75																					0.51
76												0.48									0.29
77																					0.31
78											-0.40										0.44
79						0.45															0.38
80	-0.59																				0.51
81																					0.44
82																					0.32
83		-0.54																			0.42
84																					0.36
85			-0.60																		0.50





**Table 3.** Correlation Coefficients between AMI and MPI

		Scale		
		Items		
		E scale	N scale	
AMI	Guilt - Proneness	24	0.221*	-0.197*
		32	-0.264*	0.136*
		53	0.223*	-0.305*
		57	0.287*	-0.290*
		154	0.192*	-0.208*
		22	0.185*	-0.243*
		19	0.205*	-0.132*
		73	-0.251*	0.259*
		85	-0.166*	0.327*
		44	-0.218*	0.178*
		95	-0.105	0.153*
		70	-0.164*	0.140*
		188	-0.204*	0.227*
		108	-0.245*	0.137*
		AMI	Self-confidence	127
128	0.235*			-0.222*
104	0.192*			-0.054
15	0.144*			-0.118
AMI	Arbitrary Decision	86	0.164*	-0.059
		149	0.271*	-0.052
		99	0.359*	-0.225*
		79	0.190*	-0.108
		177	0.185*	-0.218*
		122	-0.266*	0.089

\* P<0.05

ると考えられる。しかし10項目中2項目（SCATの項目5, 7）は、いずれも反応頻度に著しい偏りが生じ、テスト項目として不適切であることが見いだされた。このような結果からみても、SCATは、測定する因子の数に比べて、適切な項目の数が少ないと考えられ、また3因子によって構成されていることから、全体を1つの合成点であらわすことについても、検討の余地が残されているといえよう。

(2) 各テスト間の相関関係について

① AMIとMPIとの相関については、主として有意な相関がみられたものについて Table 3 に示さ

**Table 4.** Correlation Coefficients between SCAT and MPI

		Scale		
		Items		
		E scale	N scale	
SCAT		1	-0.174*	0.207*
		2	-0.116	0.181*
		3	-0.116	0.226*
		4	-0.105	0.148*
		5	-0.011	0.105
		6	-0.069	0.118
		7	-0.073	-0.001
		8	-0.092	0.186*
		9	-0.113	0.193*
		10	-0.135*	0.112

\* P<0.05

れている。AMIの自罰傾向を含む項目とMPIの向性（E）・神経症（N）尺度の間に有意な低い相関が認められた。またAMIの自信、及び独断傾向の因子を含む項目とMPIのE得点との間にも有意な低い相関が見られた。したがってスポーツ場面における自罰傾向、自信、独断傾向などは、わずかながら向性、神経症などの基礎的なパーソナリティ特性と関連をもっているものと推定される。

② SCATとMPIとの相関については、Table 4 に示されている。SCATの各項目（不適切な2項目を除く）とMPIのN得点との間にいずれも有意な低い相関がみられ、ここでも競技に特有な不安が、神経症などの基礎的なパーソナリティ特性とある程度関連していることが示唆されていると考えられる。

③ AMIとSCATとの相関については、主として有意な相関がみられたものについて Table 5 に示されている。AMIの自罰傾向因子を含む各項目とSCATの各項目との間で相関を検討した結果、SCATの5番目の項目と7番目の項目（不適切と考えられる項目）を除く他の項目とAMI自罰傾向を示すほとんどの項目との間に有意な低い相関が見られた。

(3) まとめ

Table 5., Correlation Coefficients between AMI and SCAT

Items	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
24	-0.310*	-0.282*	-0.259*	-0.280*	-0.032	-0.278*	-0.025	-0.076	-0.152*	-0.272*
32	0.169*	0.236*	0.276*	0.291*	0.167*	0.263*	0.117	0.090	0.129*	0.203*
53	-0.233*	-0.158*	-0.205*	-0.209*	-0.120	-0.188*	-0.031	-0.185*	-0.247*	-0.155*
57	-0.195*	-0.174*	-0.247*	-0.219*	-0.075	-0.196*	-0.111	-0.124	-0.144*	-0.127*
154	-0.217*	-0.263*	-0.249*	-0.184*	-0.063	-0.167*	-0.041	-0.187*	-0.087	-0.189*
22	-0.326*	-0.235*	-0.181*	-0.257*	-0.275*	-0.295*	-0.039	-0.262	-0.198*	-0.299*
19	-0.090	-0.143*	-0.139*	-0.102	-0.090	-0.166*	-0.121	-0.041	-0.049	-0.138*
73	0.292*	0.205*	0.263*	0.293*	0.065	0.369*	0.106	0.205*	0.212*	0.298*
85	0.222*	0.216*	0.288*	0.259*	0.008	0.268*	0.002	0.116	0.190*	0.146*
44	0.063	0.129*	0.162*	0.225*	0.008	0.176*	0.125*	0.070	0.161*	0.211*
95	0.313*	0.213*	0.252*	0.386*	0.184*	0.350*	0.109	0.331*	0.320*	0.352*
70	0.054	0.045*	0.130*	0.210*	0.137*	0.186*	-0.046	0.258*	0.304*	0.207*
188	0.157*	0.191*	0.144*	0.174*	0.117	0.208*	-0.004	0.185*	0.184*	0.231*
108	0.273*	0.277*	0.329*	0.195*	0.064	0.219*	-0.020	0.177*	0.218*	0.228*
127	0.352*	0.243*	0.335*	0.238*	-0.016	0.166*	0.054	0.187*	0.192*	0.289*

\* P&lt;0.05

日本版 AMI 及び SCAT のデータをそれぞれ因子分析した結果、AMI については、共通因子によって説明される分散は全分散の約39%で相対的に低く、また原著者の Tutko らが仮定した11因子のうち、本研究の結果と共通していると推察された因子は6つ (Factor I, II, III, V, XI, XV) であった。また SCAT においては、得点対象になる10項目中で2項目に著るしい反応の偏りが見られ、それらは不適切な項目として考えられた。さらに因子分析の結果、3因子に分離された事実は、SCAT に内的整合性がみられないことを示唆している。したがってこれらの結果は、原版 AMI と SCAT の標準化プロセスで仮定された因子的妥当性と矛盾していると言えよう。

この理由として、まず第1に考えられることは、AMI 及び SCAT はテスト作成時に因子分析的検討が加えられず、主観的方法で柱立て、及び項目の収集がなされたのではないかと推察されること、第2に原著版を日本語に翻訳した際、原著版と日本語版の項目間に意味上の違いが生じたおそれがあること、第3にSCATの項目にみられた反応の

偏りなどから日本と米国の文化的背景のちがいによる影響などが考えられる。したがって AMI, SCAT を日本で標準化する場合、さらに柱立て、及び項目の再修正を行なうことが必要であるといえよう。

さてパーソナリティの構造という視点からみて、基本的なパーソナリティ特性とスポーツ場面のような特殊な状況における行動特徴とは、Hollander らが主唱するいわゆる内的レベル (心理的核心) と外的レベル (典型的反応, 役割関係行動) に対応するものとして考えられ、相互に関連していることが仮定される。本研究において AMI 及び SCAT と MPI の有意な相関がわずかながら観察されたことは、この仮定をある程度立証するものとして考えられよう。しかしながら観察された相関は、いずれも低く、また相関のある要因も限られていることなどについては、さらに検討を加える必要がある。なお本研究では、女子学生がテスト対象になっているため、性差の要因についての検討がなされておらず、この点についても未解決な問題が残されていると考えられる。

文 献

- 1) Fisher, A. C., Multidimensional scaling of sport personality data: an individual difference approach, *Journal of Sport Psychology*, 1979, **1**, 76-86.
- 2) Fisher, A. C., Horsfall, J. S. & Morris, H. H., Sport personality assessment: A methodological re-examination. *International Journal of Sport Psychology*, 1977, **8**, 92-102.
- 3) Gruver, J. J. & Beauchamp, D., Relevancy of the Competitive State Anxiety Inventory in a Sport Environment, *Research Quarterly*, 1979, **50**, No. 1 207-214.
- 4) Hollander, E. P., Principles and methods of social psychology. New York: Oxford University Press. 1967.
- 5) Martens, R., Sport competition anxiety test. Champaign: Human Kinetics Publishers, 1977.
- 6) Morgan, W. P., Sport personology: The credulous-skeptical argument in perspective. In W. F. Straub (Ed.), *Sport psychology: An analysis of athlete behavior*. Ithaca: Movement Publications, 1978. pp. 218-227 (a)
- 7) Morgan, W. P., Prediction of performance in athletics. In P. Klavara & J. V. Daniel (Eds.), *Coach, athlete, and the sport psychologist*. Champaign: Human Kinetics Publishers, 1979, pp. 173-186.
- 8) Tutko, T. A., Lyon, L. P. & Oglive, B. C., Athlete's inventory form, Science Research Associates, Inc. 1977.
- 9) 伊藤早由美, 猪俣公宏, 西田保, 岡沢祥訓, 日本版 Athletic Motivation Inventory と Sport Competition Anxiety Test の因子分析結果, 日本体育学会第31回大会号 p.324. 1980.
- 10) 猪俣公宏, スタミナの心理 — 心理的環境や心理的特性から —, 松井秀治編著「スポーツとスタミナ」, 大修館書店 1978.

(1981年1月28日受付)



資料 1

A M I — J

1. 私がまだ小さかったころ、スポーツ記録を破ることを考えた。  
(A) いつも (B) たびたび (C) 時々
2. 私はチーム内や作戦会議で発言しない。というのは、議論につけ加えることは何もないと感じるからである。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
3. 競技中というのは「つぶすか、つぶされるか」のどちらかである。  
(A) 全ったくそう思う (B) そう思う (C) 少しそう思う
4. コーチに対して反抗心を感じる。  
(A) 時々感じる (B) めったに感じない (C) 全く感じない
5. 私は一度新しい練習を始めたら、とことんまでそれを行なう。  
(A) はい (B) どちらでもない (C) いいえ
6. 私は競技中に自分の感情をコントロールすることが難しいと思う。  
(A) 時々思う (B) めったに思わない (C) 全く思わない
7. すべてのルールに従ってこそ本当に勝つことができると信じています。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
8. もし、仲間が私を助けようと骨折ってくれたとしても、私は、その理由を疑うことがある。  
(A) たびたびある (B) 時々ある (C) 全くない
9. 私は自分のチームが負けた時、責任を感じる。  
(A) いつも感じる (B) たびたび感じる (C) 時々感じる
10. 私はチームキャプテンとなって、その責任を果たしてみたいと思う。  
(A) 全くそう思う (B) そう思う (C) 少しそう思う
11. 私はコーチが私を批評した時、助言されていると感じるよりも、むしろ気分を害すことがある。  
(A) 時々ある (B) めったにない (C) 全くない
12. 私は試合で少なくとも一回は負けたことがある。  
(A) はい (B) わからない (C) いいえ
13. コーチから私にやれと言われたことは、いつもその通り行う。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
14. 他の人が練習を真剣にやらないのでらくらしていることが私をいらいらさせる。  
(A) いつもする (B) 時々する (C) 全くしない
15. 私は競技者としての自信を持っている。  
(A) 全くそうである (B) そうである (C) 少しそうである
16. 相手から本当に尊敬されるためには、信念があるかどうかを示さねばならないと思う。  
(A) 非常にそう思う (B) そう思う (C) 少しそう思う
17. 私は練習規則を重んじる。というのは、それによって私がより優れた競技者になれるからです。  
(A) 全くそう思う (B) だいぶそう思う (C) そう思う
18. 私は規定の練習期間のほかに同じくらい自分の練習を行う。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
19. 私はある技術や動きができないとき、憂うつになる。  
(A) 時々なる (B) めったにならない (C) 全くならない
20. 私は時々、だれのことも全く気にかけていないと思う。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
21. 私はうぬぼれている仲間の競技者をかなり我慢できる。  
(A) たびたびできる (B) 時々できる (C) めったにできない
22. 試合の前日、試合のことを考えて眠れないことがある。  
(A) たびたびある (B) 時々ある (C) めったにない
23. 仲間が悩みごとの相談に私のところへ来ることがある。  
(A) たびたびある (B) 時々ある (C) めったにない
24. コーチが私を怒鳴ったあと、私はしばらくの間そのことが気になる。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
25. 私の競技歴の中で不調の日は決してなかった。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
26. 私は仲間が全力を尽すことをいつも望んでいる。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
27. 人々は私のことを勝つためには、手段を選ばない人だと言っているだろう。  
(A) そう思う (B) どちらともいえない (C) そう思わない
28. 試合がうまくいかない時、私は勝つ希望を失うことがある。  
(A) 時々ある (B) めったにない (C) 全くない
29. 私は競技中に相手を本当に嫌うことが簡単にできる。  
(A) 全くそう思う (B) そう思う (C) いくらかそう思う
30. 私はコーチがなぜ全競技者をいつも同等に扱わないか理解できる。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
31. 私は長くてきびしい練習期間について考えるだけで疲れてしまう。  
(A) 時々 (B) めったにそうでない (C) 全くそうでない
32. 私は試合の最初でミスすると、それに影響されてしまう。  
(A) 時々される (B) めったにされない (C) 全くされない
33. 私は忠実に競技のルールに従う。  
(A) いつも従う (B) 時々従う (C) 全く従わない
34. 私は時々いとも簡単に仲間の競技者に腹をたてる。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
35. 私は一生懸命練習することもなしに成功した大勢の競技者を知っている。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
36. 私は仲間の競技者にできるだけ多く話をさせるほうである。  
(A) たびたびそうである (B) 時々そうである (C) めったにそうでない
37. 上手にできたときには、ほめられたいと思う。  
(A) いつも思う (B) たびたび思う (C) 時々思う
38. 競争競技は、ちょうど10年前に始まった。  
(A) はい (B) わからない (C) いいえ
39. 私は試合中に生じるかもしれない予測できぬことを、考えようと努めている。  
(A) 全くそう思う (B) そう思う (C) 少しそう思う
40. コーチが私を側に呼ぶ時。  
(A) 私の悩み事を話すよいチャンスだと思う (B) どちらともいえない (C) 何かうまくいかないのかと心配する

41. 相手が私を負かしたら、私は試合後彼らを祝福する。  
(A) 時々する (B) めったにしない (C) 全くしない
42. 私の種目の優秀な競技者を主に次の理由で最高だと思う。  
(A) 良いコーチがいるから (B) 良い戦術をとるから  
(C) より良い競技者であるから
43. 新しい作戦を与えられた時、私はすぐに完全にわかるまでそれを勉強する。  
(A) いつもする (B) たびたびする (C) 時々する
44. 試合中に何回か失策をすると私は気落ちする。  
(A) 時々する (B) めったにしない (C) 全くしない
45. 私は競技を一生懸命やるよりも、コーチに好かれることのほうが重要だと考える競技者を理解することができる。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
46. 私はばかにされても、めったに気につけない。  
(A) 全くそう思う (B) そう思う (C) 少しそう思う
47. 自分の誤りを修正する最も良い方法は、長時間練習することである。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
48. 仲間の競技者を自分の思う通りに動かすことは難かしいことだと思う。  
(A) 時々思う (B) めったに思わない (C) 全く思わない
49. 誤ったことをした時、コーチがそれについて個人的に話して欲しいと思う。  
(A) はい (B) どちらでもよい (C) いいえ
50. たいていのコーチは試合に負けることを好まない。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
51. 競技に参加することは、重傷を負う危険をおかす価値がある。  
(A) 全くそう思う (B) そう思う (C) 少しそう思う
52. 私は練習よりも試合で頑張ろうとする。  
(A) いつもそうする (B) たびたびそうする (C) 時々そうする
53. 時々、私は決断することができなくて負けてしまう。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
54. 私は競技について議論することを楽しむ。  
(A) たびたび楽しむ (B) 時々楽しむ (C) 全く楽しまない
55. 次のうちどれが真のコーチングだと思いますか。  
(A) コーチングはあるタイプの競技者には害となりうる  
(B) どちらともいえない (C) 常に効果がある
56. コーチング時間が長くなって時々あきてくることもあるが、注意を集中しようと努力する。  
(A) いつもする (B) たびたびする (C) 時々する
57. 試合中に怒ったり気を落としても、私はたいていすぐに冷静になる。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
58. トレーニングについての規則は、私のやりたいことの邪魔にはならない。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
59. 相手が汚いプレーをするなら、私も不正をしてよいと思う。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
60. 運動は。  
(A) 解放感を得るために効果がある (B) どちらともいえない  
(C) 本当に筋肉痛になるまで行なわないと意味がない。
61. 私は時々、もっと自分を主張したいと思う。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
62. 私は仲間の競技者たちの行なっていることから仲間はズレにされていると思う。  
(A) 時々思う (B) めったに思わない (C) まったく思わない
63. 私はスポーツが嫌いなので競技に参加する。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
64. トレーニング規則を破ったとき、問題を起こさないためにそれについてうそは言わない。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
65. 私は仲間から情緒的に最も安定した競技者の一人であると考えられている。  
(A) 全くそう思う (B) そう思う (C) 少しそう思う
66. 私は予測しない事態が起きて、とてもうまく処理できる。  
(A) 全くそう思う (B) そう思う (C) 少しそう思う
67. 試合中最も重要なことは、できる限り独断的になることだと思う。  
(A) そう思う (B) 少しそう思う (C)それほど重要でない
68. もし、試合に出してもらえなかったら私は。  
(A) なぜ試合に出られないかをコーチに尋ねる  
(B) それについて仲間に尋ねる (C) 何も言わない
69. 私は練習の休憩時に時々夢想にふける。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
70. 練習中、小さな問題や仲たがいが生じた時、私はそのことを気にせずにはいられない。  
(A) 時々する (B) めったにしない (C) 全くしない
71. 私は個人的には時々ある規則を破りたくなる。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
72. 私が自分自身、自分のチーム、自分の種目についての不当な記事を読んだ時には、怒るよりもむしろ忘れようとする。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
73. 私は自分が失敗した時2、3日本当に悩んでしまう。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
74. 私は欲しいと思ったものを手に入れたいと気がすまない。  
(A) いつもそう (B) たびたびそう (C) 時々そう
75. 私はコーチが他の人の前で私を怒りつけても気にならない。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
76. 私は今まで出場した試合にはすべて勝っている。  
(A) はい (B) わからない (C) いいえ
77. ハッスルすることは重要であるが、それによって才能のなさを補うことはできない。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
78. 私は試合でプレッシャーがかかっているときがいちばん好きである。  
(A) 全くそう思う (B) そう思う (C) 少しそう思う
79. 仲間の競技者が本気でやっていないなら、私は彼らに怒りをぶつける。  
(A) 時々そうである (B) めったにそうでない (C) 全くそうでない
80. 私はコーチの作戦や計画に忠実に従いたくないと思うことがある。  
(A) 時々ある (B) めったにない (C) 全くない
81. 私は忠実に実行できない練習がいくつかある。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
82. 私は試合の真最中に後で後悔するようなことを仲間に言うことがある。  
(A) 時々ある (B) めったにない (C) 全くない

83. 私は用具を使ったら、もとのままにきちんともどす。  
(A) いつもそうする (B) たびたびそうする (C) 時々そうする
84. 精神的に少し「おかしい」が、それを認めようとしないう競技者を何人か知っている。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
85. コーチが私をまちがって批判しても、私は失敗をしたのではないかと気に病む。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
86. 私は仲間の競技者に指図するのは好きではない。  
(A) 全くそう思う (B) そう思う (C) 少しそう思う
87. 悪い成績をおさめたとき、私は時々泣きたいと思う。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
88. 私の知っている最も若い競技者は85才である。  
(A) はい (B) わからない (C) いいえ
89. 私はひどく負けている時にも、勝っている時と同じくらい一生懸命に競技する。  
(A) いつもそうする (B) たびたびそうする (C) 時々そうする
90. 仲間の競技者の大部分は、私が私の種目に熱心だと言ってくれる。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
91. 本当にすばらしい競技者に会ったとき、私は自分にとるにたらなきを感じる。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
92. 人の競技能力は体力を必要とする種目によって試されると思う。  
(A) 全くそう思う (B) そう思う (C) 少しそう思う
93. 私はコーチになりたい。  
(A) 非常にになりたい (B) になりたい (C) わからない
94. すぐれた競技者になるために最も重要なことは、長時間の厳しい練習である。  
(A) はい (B) わからない (C) いいえ
95. 私は試合前に緊張に悩まされることがある。  
(A) 時々ある (B) めったにない (C) 全くない
96. 私は他に重要なことが起こったとき、時々練習をさばりたいと思う。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
97. 私は私の知っているたいていの人々を信頼している。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
98. 私はコーチが正当な理由なしに私を批判すると思うことがある。  
(A) 時々ある (B) めったにない (C) 全くない
99. 私が議論する時私は  
(A) たいてい勝つ (B) 時々勝つ (C) めったに勝たない
100. 私は普通の競技者よりも感受性が強いと思う。  
(A) たびたび思う (B) 時々思う (C) めったに思わない
101. 試合に負けることが試合の目的である。  
(A) はい (B) わからない (C) いいえ
102. 私はすべての試合に勝つだろうと思う。  
(A) いつも思う (B) 試合による (C) どう感じるのか気分による
103. 相手と競技するとき。  
(A) 相手の強さに焦点をおくべきだ (B) どちらともいえない  
(C) 相手の弱さに焦点をおくべきだ
104. 私の属するリーグやクラスの中で私は自分の種目では一位になれると思う。  
(A) はい (B) わからない (C) いいえ
105. 私は試合中に口汚なくののしることはない。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
106. これから何が起こるかかわからないところに競技の一つの特性がある。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
107. 私は仲間のたいていの競技者よりも長く厳しい練習を喜んでする。  
(A) 全くそう思う (B) そう思う (C) 少しそう思う
108. 私は負けるのではないかと心配する。  
(A) 時々する (B) めったにしない (C) 全くしない
109. 私は行動する前に私の行動が他人にどのような影響を与えるかを考える。  
(A) いつも考える (B) たびたび考える (C) 時々考える
110. 私は時々本当にくだらない競技者の指図をうけなければならないことがある。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
111. チームが負けたとき、それはたいていコーチの失敗というよりチームの失敗である。  
(A) 全くそう思う (B) そう思う (C) 少しそう思う
112. 私はリーダーになるよりもむしろ仲間の指図に従うことがある。  
(A) 時々ある (B) めったにない (C) 全くない
113. 私は怪我をすることを心配しない。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
114. プロの競技者は競技によって報酬を得ている。  
(A) はい (B) わからない (C) いいえ
115. たぶん私の種目にはいつも私より優れた人がいるだろう。  
(A) はい (B) わからない (C) いいえ
116. 私は相手との対戦に備えなければならない、というの私は私が勝てるかどうか自信のない時があるからである。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
117. 試合で最も効果をあげるためには。  
(A) 相手を憎むべきである (B) 相手の能力を尊敬すべきである  
(C) 相手を気にせず自分に集中すべきである
118. 私はどのコーチも尊敬しているので、彼らのために競技してきた。  
(A) そう思う (B) 少しそう思う (C) そう思わない
119. 私は必要があるときだけ一生懸命練習する。  
(A) 時々そう (B) めったにそうでない (C) 全くそうでない
120. 仲間の競技者は私を好いてくれていると思うけれど、私のことをおっちょこちょいと思っている。  
(A) 時々そう思っている (B) めったにそう思っていない  
(C) 全くそう思っていない
121. 私は勝つために規則をうまく破る競技者に感心する。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
122. 私は仲間が利己的又は不当なふるまいをしていると思っても、めったにそれを「あばこう」とはしない。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
123. けがをした時、私は  
(A) それ程痛くないなら競技しようとする  
(B) 痛くても競技する  
(C) 縮行不能になるまで競技しようとする
124. 私は新しい技術のデモンストレーターに選ばれたと思うことがある。  
(A) たびたびある (B) 時々ある (C) めったにない

125. 私は時々コーチが言った内容よりも、コーチの言い方によって傷つけられる。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
126. ファンは決して競技会を見にはこない。  
(A) はい (B) わからない (C) いいえ
127. 私は技術を正確に習得できない時、自分自身にいや気がする。  
(A) いつもそうである (B) たびたびそうである (C) 時々そうである
128. 私は自分がリーグやクラスの中で少なくとも他の何人かの競技者程うまくないと思っている。  
(A) 時々思う (B) めったに思わない (C) 全く思わない
129. 相手が私を負かした時、私は彼らにすぐ仕返しをしたいと思います。  
(A) いつも思う (B) たびたび思う (C) 時々思う
130. 私は他人の助言なしでたいてい最高に競技できる。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
131. 私は何か新しいことを試みるとそれを完全に習得するまで常にそれを行う。  
(A) 全くそう思う (B) そう思う (C) 少しそう思う
132. 競技についての私の感情はめったに天候に左右されない。  
(A) 全くそう思う (B) そう思う (C) 少しそう思う
133. 練習中、私はできるだけものごとを正確に行おうと思っている。  
(A) いつも思う (B) たいていいつも思う (C) たいてい思う
134. 私の成績がはめられすぎると時々私は不安になる、というのは、それが本物でないとと思うから。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
135. 私は試合中に失敗をすれば、怒罵りつけられて当然だと思う。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
136. 私は仲間の競技者とする時、その仲間に決定をまかせるほうである。  
(A) たびたびそうである (B) 時々そうである (C) めったにそうでない
137. 私は上手なしかり方が競技者の成績の向上に役立つと思う。  
(A) いつも思う (B) たびたび思う (C) 時々思う
138. 競技はほとんど身体活動を必要としない。  
(A) はい (B) わからない (C) いいえ
139. 私は練習中にどうでもよいことに時間をかけすぎと思う。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
140. 私は負けたあと、みじめになり落胆する。  
(A) いつもそう (B) たびたびそう (C) 時々そう
141. 私は自信家であると思う。  
(A) 全くそう思う (B) そう思う (C) 少しそう思う
142. 試合中にある人は私が攻撃的になりすぎと思うかもしれない。  
(A) はい (B) わからない (C) いいえ
143. 成績を上げる方法を思いついたら私は  
(A) コーチにいう (B) 自分の心の中にとめておく  
(C) 仲間の競技者に言う
144. もし、シーズンオフの厳しいトレーニング計画に従うように言われたら、私はそれを忠実に守る。  
(A) 全くそう思う (B) そう思う (C) 少しそう思う
145. 試合を待ち望んでいても、私はその時が来た時試合に対する準備ができていないと感じることがある。  
(A) 時々ある (B) めったにない (C) 全くない
146. トレーニングのきまりは時々意義を唱えるべきだ。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
147. 仲間の競技者がおうへいにするまってもたいてい私は気にしない。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
148. 苦しく激しい練習は  
(A) 勝利者になるために重要なことである (B) わからない  
(C) 一部の人が考える程重要なことではない
149. 私の仲間の競技者は、私が強い性格であると思っている。  
(A) はい (B) わからない (C) いいえ
150. 私が最も良い成績をあげた時のコーチは  
(A) がんこで強情であった (B) どちらともいえない  
(C) 繊細で理解があった
151. 競技を見る人は一人もいない。  
(A) はい (B) わからない (C) いいえ
152. 私は借りた競技用具を大切に使う。  
(A) いつもする (B) たいていする (C) めったにしない
153. 私の対戦した相手チームはみな過去において優勝している。  
(A) はい (B) わからない (C) いいえ
154. 時々、私は自分がやりたいと思うすべてをするだけの能力がないと思う。  
(A) はい (B) わからない (C) いいえ
155. 試合の中で私にとって重要なことは、相手はそれほど強くないと思ひこむことである。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
156. 私はほとんど自分の問題をコーチに相談しない。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
157. 私は退屈な練習に我慢できなくなることがある。  
(A) たびたびある (B) 時々ある (C) めったにない
158. 競技者の生活には多くの欲求不満と拘束があると思う。  
(A) 時々思う (B) めったに思わない (C) 全く思わない
159. チームのために競技する時、私は個人的利益より先にチームの利益を優先する。  
(A) いつもそう (B) たびたびそう (C) 時々そう
160. 競技者がスポーツ規則を守るのは、主に罰則を恐れるからである。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
161. 時々、仲間の競技者の失敗によって私も失敗することがある。  
(A) はい (B) わからない (C) いいえ
162. 私は議論になるとめんどくさくなる。  
(A) 時々そう思う (B) めったに思わない (C) 全く思わない
163. 私はコーチの励ましを必要とする。  
(A) 全くそう思う (B) そう思う (C) 少しそう思う
164. わが国は競技大会を行う唯一の国ではない。  
(A) はい (B) わからない (C) いいえ
165. 競技者は、あまり上手でない競技者とは気楽にやるべきだと思う。  
(A) 時々思う (B) めったに思わない (C) 全く思わない
166. 物事がうまくいかない時、私はうまくいくようにすることができると思う。  
(A) いつも思う (B) たびたび思う (C) 時々思う
167. 私にとって相手に勝つことは重要なことではない。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
168. コーチが不在の時、私はチームのキャプテンやリダの指図に従う。  
(A) いつも従う (B) たびたび従う (C) 時々従う

169. 長い疲れる練習のあと私はたいてい自分の失敗を振り返る。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
170. コーチは私を誤解していると思う。  
(A) 時々思う (B) めったに思わない (C) 全く思わない
171. トレーニング規則が私の自由を妨げるなら、それを破りたいと思う。  
(A) 時々思う (B) めったに思わない (C) 全く思わない
172. 陰で私の悪口を言う仲間の競技者を私は気にすることはない。  
(A) 全くそう思う (B) 少しそう思う (C) 全くそう思わない
173. 私は勝利者になるための「苦痛、苦もん、苦惱」を信じる。  
(A) 全くそう思う (B) そう思う (C) 少しそう思う
174. 私は他の者を統制しなければならない人間だと思う。  
(A) 時々思う (B) めったに思わない (C) 全く思わない
175. 私の知らないことが競技仲間の間で起こっていると思う。  
(A) 時々思う (B) めったに思わない (C) 全く思わない
176. 私は試合中、失敗したことがない。  
(A) はい (B) わからない (C) いいえ
177. 私は競技仲間との議論に加わらない。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
178. 私は他の人がさぼっていてもしっかり練習する。  
(A) いつも (B) たびたび (C) 時々
179. 私はミーティングで発言しないというのは、批判されるのを恐れるからである。  
(A) 時々そう (B) めったにそうでない (C) 全くそうでない
180. 私は相手と友好的な人がその相手に勝つことができるとは思わない。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
181. 私はコーチがいつも正しいとは限らないと思う。  
(A) 時々思う (B) めったに思わない (C) 全く思わない
182. 私は練習が終わったあと、残ってさらに練習することはない。  
(A) そうである (B) 少しそうである (C) そうでない
183. 私は試合中に平静を失うことがある。  
(A) 時々ある (B) めったにない (C) 全くない
184. 練習に遅れることに対して全く弁解の余地はないと思う。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
185. 私は仲よくやっていくことのできない仲間の競技者がたいてい2～3人いる。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
186. チームが負けるとき、それはたいてい私の失敗のせいである。  
(A) はい (B) どちらともいえない (C) いいえ
187. 私は将来、コーチとしての責任を負いたいと思う。  
(A) 全くそう思う (B) そう思う (C) わからない
188. 強く批判されたあと私は成績が落ちる。  
(A) 時々 (B) めったにない (C) 全くない
189. ほとんどの競技者はユニホームを着ない。  
(A) はい (B) わからない (C) いいえ
190. 新人の競技者がチームや試合に加わる時、私は  
(A) 彼らの実力を見ようとする  
(B) うまく競技することを期待する  
(C) 彼らを援助しようとする

資料 2

S C A T - J

	めったにない	ときどき	たびたび
1. 他の競争相手と競争することは、社交上楽しいことである。	A <input type="checkbox"/>	B <input type="checkbox"/>	C <input type="checkbox"/>
2. 私は競技の前に不安を感じる。	A <input type="checkbox"/>	B <input type="checkbox"/>	C <input type="checkbox"/>
3. 私は競技の前に、うまくできないのではないかと心配する。	A <input type="checkbox"/>	B <input type="checkbox"/>	C <input type="checkbox"/>
4. 私は競うときは、良いスポーツマンです。	A <input type="checkbox"/>	B <input type="checkbox"/>	C <input type="checkbox"/>
5. 私は競うとき、ミスをすることについて心配する。	A <input type="checkbox"/>	B <input type="checkbox"/>	C <input type="checkbox"/>
6. 私は競技の前、落ちついている。	A <input type="checkbox"/>	B <input type="checkbox"/>	C <input type="checkbox"/>
7. 競技するときは、目標をたてることが重要である。	A <input type="checkbox"/>	B <input type="checkbox"/>	C <input type="checkbox"/>
8. 私は競技の前、胃がむかつく。	A <input type="checkbox"/>	B <input type="checkbox"/>	C <input type="checkbox"/>
9. 競技の直前になると、私はいつもより心臓がどきどきするの に気がつく。	A <input type="checkbox"/>	B <input type="checkbox"/>	C <input type="checkbox"/>
10. 私はからだをたくさん使うような競技が好きである。	A <input type="checkbox"/>	B <input type="checkbox"/>	C <input type="checkbox"/>
11. 私は競技の前、くつろぎを感じる。	A <input type="checkbox"/>	B <input type="checkbox"/>	C <input type="checkbox"/>
12. 私は競技の前、神経質になる。	A <input type="checkbox"/>	B <input type="checkbox"/>	C <input type="checkbox"/>
13. 集団的スポーツは、個人的スポーツよりエキサイトする。	A <input type="checkbox"/>	B <input type="checkbox"/>	C <input type="checkbox"/>
14. 私はゲームを始めようと思うと神経質になる。	A <input type="checkbox"/>	B <input type="checkbox"/>	C <input type="checkbox"/>
15. 私は競技の前、いつも緊張する。	A <input type="checkbox"/>	B <input type="checkbox"/>	C <input type="checkbox"/>